## 12月

みんぱくウィークエンド・サロン

# 研究者と話そう

■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。
どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

**4日（日曜日）**
時間：11 時から 12 時
話者：伊藤敦規（国立民族学博物館 助教）
話題：【特別展関連】先住民と博物館資料
場所：特別展示館

**11日（日曜日）**
時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：小川さやか（国立民族学博物館 機関研究員）
話題：古着のゆくえ――先進諸国からアフリカへ
場所：アフリカ展示場入口

**18日（日曜日）**
時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：岩谷洋史（国立民族学博物館 機関研究員）
話題：【年末年始展示イベント「たつ」関連】
年末年始展示イベント「たつ」と職員研修会
場所：企画展示場 B

**25日（日曜日）**
時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：藤本透子（国立民族学博物館 機関研究員）
話題：カザフ遊牧民のイスラーム
場所：中央・北アジア展示場入口

## 1年間みんぱくに何度でも入館できる「みんぱくフリーパス（3,000円）」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引　など。
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話06−6877−8893／平日9：00 ～ 17：00）

## 編集後記

本号ではポピュラーアートが特集テーマである。文化人類学はエスニックアートやフォークアートとは縁が深く、民博にも研究対象とする人が何人かいる。しかし、ポピュラーアートは、存在することはわかってはいても、正直いって私にはその輪郭がいまひとつ見えないでいた。今回、川口氏が提示した、「笑えるアート」は結構うまくいい当てている気がする。そういえば、エスニックアートでもフォークアートでも笑いをともなう部類は確かにある。その一方、いずれの分野にも審美者階層の出現により有名になり、プロ化したアーティストの作品は、笑ってはいけないファインアートに昇華していくのかもしれない。と、納得した気分でいるうちにつぎの話題にうつる。

「多文化をささえる人びと」は本号をもって終了する。わたしたちの周囲に生活する外国人や彼らを支援する人びとに注目しようとしたシリーズで、その前身の「外国人として生きる」とあわせると5年9カ月にわたる。執筆者はもとより、登場していただいた方々に感謝したい。次号からは、フェアトレードなどあらたな市民運動をとりあげるシリーズが始まる。ご期待いただきたい。（庄司博史）

●表紙：アフリカ展示場にある床屋の看板。
地域 ガーナ共和国　標本番号 H0231432

### 次号の予告

特集
**辰**

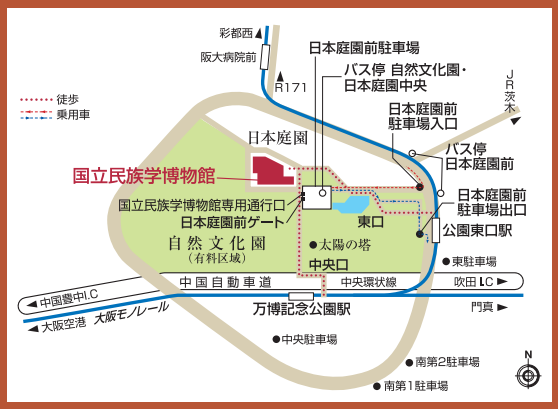

月刊みんぱく 2011 年 12 月号
第 35 巻第 12 号通巻第 411 号　2011 年 12 月 1 日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話　06-6876-2151

発行人　八杉佳穂
編集委員　庄司博史（編集長）　樫永真佐夫　川口幸也
久保正敏　菅瀬晶子　中牧弘允　山中由里子
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款
制作・協力　財団法人 千里文化財団
印刷　日本写真印刷株式会社



＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。


交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください）。
●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/